

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」



大阪市立東中浜小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

生活指導面では、授業中と休憩時間の区別をつけた行動ができるなど、落ち着いた雰囲気、ほとんどの児童が学校生活を過ごしている。

また、日々の教育活動の中では、児童間トラブルの早期発見、早期解決、保護者との連携を大切にしながら丁寧に進めた。その結果、児童間トラブル解決 100%はほぼ達成できている。しかし、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに、自信をもって「思う」と答えられる児童の割合は 77.5%と低く、今後課題を残した。

社会見学や出前授業、児童会活動などの体験的・主体的な活動を積極的に実施し、自己肯定感や自己有用感の育成を図っており効果を上げている。

しかし、不登校や行き渋りの児童が増加しており、その対応では、原因が特定できない場合や保護者の価値観の多様化により、解決に時間がかかる事案が増えてきており、学級担任の負担の一因ともなっている。今後チーム学校での対応、こどもサポートネットの活用など、積極的に進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学習面では、昨年度より研究主題を「『主体的・対話的で深い学び』を支えるICT活用」とし、ICT機器の授業での効果的な活用について全教員で研究を進めている。結果、一人一台端末を活用した授業の進め方・話し合い活動の充実などの授業力は大きく進展し、教員のICT機器の活用力は飛躍的に伸びている。また、メンター研修を積極的に実施、若手教員の授業力・指導力の向上につなげた。

経年調査の結果等では、経年で比較して学力面で向上した学年が多かった。これは学校全体が落ち着いた雰囲気の中で日々の授業が展開できており、学習にまじめに取り組む児童、それを導く教員・サポーターの頑張り、地域ボランティアを活用した読書活動の充実などが要因と考えられる。また、学期に一度の「100マス計算デー」の実施や、「親子で学ぼう」の企画を実施し、児童に対しては基礎学力向上や学習の励みにつなげ、保護者に対しては家庭学習の啓発活動を進めた。

運動面では、「運動やスポーツが好き」な児童の割合は 65.5%と決して高くないが、教員向けシナプソロジー研修を実施し授業等で積極的に活用を図るとともに、げんキッズ週間・縄跳び週間・かけあし週間の設定など、多数の運動に関する動画作成による一人一台端末での視聴など、運動が好きになるよう児童への啓発活動に力を入れている。

健康面では、手洗い・うがいの習慣は定着してきており、感染症の予防に役立った。

【学びを支える教育環境の充実】

児童の一人一台端末の活用については、教員のICT機器活用力の向上とともに、大きく伸びており、授業や行事等での調べ学習やプレゼン、写真・動画・様々な学習コンテンツの利用、家庭と教室を結んだ授業のオンライン配信、学級休業時の活用など、活用の機会は益々増加している。

教職員の働き方改革については、校務分掌の見直し、行事・取り組みの精選、事務作業の効率化などを進めているが、教職員の長時間勤務の改善は不十分である。教職員の抱える業務は、授業研究、一人一台端末の活用、学級経営、個に応じた対応、保護者対応、各種調査や研修など年々増大しており、教職員の負担感はピークに達している。今後も前例にとらわれない思い切った改革を進めていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 【78.1%】

令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を1%以下に減少させる。 【1.9%】

令和7年度の学校アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で肯定的な「そう思う」の割合を80%以上に向上させる。 【82.2%】

令和7年度の学校アンケートで「先生や友だちにあいさつができていますか」の項目で、肯定的な「そう思う」の割合を90%以上に向上させる。 【92.0%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度の小学校学力経年調査における全学年の国語・算数の平均正答率の対全国比を1.03以上に向上させる。 【国語 3年0.99、4年1.07、5年1.02、6年1.03】

【算数 3年0.99、4年1.04、5年1.00、6年1.04】

令和7年度の学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。 【31.8%】

令和7年度の学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 【67.2%】

令和7年度の学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 【72.5%】

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の52%以上にする。 【85.8%】

令和7年度の学校アンケートにおける「正しいキーワードを入力して、知りたいことをインターネットで調べることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 【82.7%】

ゆりの日を週に1回設定し実施する。 【ほぼ実施】

令和7年度末までに年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。 【80.0%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小学校)

◇小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

[前年度 77.5%]

◇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78.5%以上にする。

[前年度 78.4%]

学校の年度目標

◇年度末の学校アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。

[前年度 77.5%]

◇年度末の学校アンケートにおいて「先生や友だちにあいさつができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。

[前年度 90.0%]

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標(小学校)

◇小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

[前年度 4年 1.02、5年 1.04、6年 0.97]

◇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度より向上させる。

[前年度 27.7%]

◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。

[前年度 65.5%]

学校の年度目標

◇年度末のキラピカ週間の調査で「ハンカチ、ティッシュの携帯」に、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。

[前年度 ——%]

【学びを支える教育環境の充実】

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(小学校)

◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を、昨年度より増加させる。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。

[前年度 52.0%]

◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない）を満たす教職員の割合を前年度以上にする。

[前年度 58.3%]

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度を振り返ると、夏は記録的猛暑、冬はインフルエンザ A 型と B 型の大流行と、1 年を通して児童・教員の安全・健康管理を最優先とした学校運営であった。

そのような中で、児童間トラブルや学校内外での問題行動、行き渋り等に関しては、日々の観察や教職員間の連携により、早期発見・早期解決に努めた。特に対応が難しい事案に関しては学級担任だけでなく、学年、特別支援、旧学級担任、生活指導、教務、専科教員、養護教員、SC、管理職が臨機応変にチームで対応し、解決につなげた。一方、標準服や授業規律など規範意識の醸成には一部課題があり、今後保護者の協力も得ながら、働きかけを進めていく必要がある。また、SNS 上のトラブル未然防止の啓発も今後の重点課題である。

豊かな心の育成に関しては、児童会活動、出前授業、社会見学等の体験活動を積極的に行った。また友だちや自分の良さに気づく「いいことみつけ」などの自己肯定感を高める活動に力を入れた。その結果、「人の役に立ちたい」「自分にはいいところがある」「あいさつをする」児童の割合は昨年度より大きく向上した。

学習面に関しては、昨年度好評であった、「親子で学ぼう」の企画を本年度は「漢字」で実施し、学習意欲・基礎学力の向上と家庭学習の啓発を進めた。

また、『主体的・対話的で深い学び』を支える ICT 活用』をテーマに、2 年間にわたり授業研究を進め、1 月には城東区の教員研究会で発表を行った。その結果、教員・児童とも ICT 活用力が劇的に向上し、授業だけでなく行事や児童会活動、家庭学習等での一人一台端末の活用の幅が大いに広がった。この成果を活かし、今後、「主体的・対話的で深い学び」に繋がるような ICT 活用方法をより深めていく。

運動面では、かけあし週間、なわとび週間、げんキッズ（外遊び）週間などの取り組みにより、休み時間に元気に運動場を駆け回る児童が増加しており、経年調査の結果でも「運動が好き」と回答する児童が昨年度より大幅に向上した。

健康面では、本年度はインフルエンザによる学級休業が頻発した。手洗いキラピカ週間や健康生活週間などを設け、保護者・児童への啓発活動を進めているが、今後も油断せず、家庭と連携しながら学校内外での感染症対策を継続していく。

働き方改革の面では、保護者・地域の理解も得ながら、電話対応時間の短縮、ミマホルメの積極的活用、運動会土曜開催、来年度より通知表前後期制、SSS との連携などを進めた。また、一人の教員に業務が集中するのを避け、複数教員（チーム）で対応できる体制を目指して 2 年前より校務分掌を大きく改変した。まだまだ不十分なところもあるが、結果として教員の長時間勤務は改善に向かっている。しかし家庭への持ち帰り業務など数字には上がってこない隠れ残業があるのも現状である。教員志望者減少の中、教員のゆとり確保のため、授業時数見直しの国の方針も踏まえ、今後も改革を進めていく必要がある。

今後も、すべての児童が良い友だち関係を築き、安心して笑顔で登校し、意欲的に学べる学校をめざし、教職員が働きやすい環境づくりを進めながら、全教職員一丸となって全力で取り組んでいきたい。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>◇小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 〈今年度 78.1%〉 [前年度 77.5%]</p> <p>◇小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78.5%以上にする。 〈今年度 77.5%〉 [前年度 78.4%]</p> <p>学校の年度目標</p> <p>◇年度末の学校アンケートにおいて「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 〈今年度 95.5%〉 [前年度 77.5%]</p> <p>◇年度末の学校アンケートで、「先生や友だちにあいさつができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。 〈今年度 92.0%〉 [前年度 90.0%]</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◇学期に一回いじめアンケートを実施し、その結果を生活指導連絡会や職員会議後の児童理解研修会などの児童の実態を把握できる場で、全教職員で共通理解を図る。また、少なくとも学期に一回はいじめ根絶のために、いじめ対策や自己肯定感を高める内容の道徳の授業を全学級で取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇小学校学力経年調査において、①「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、②「学校に行くのは楽しいですか」に対して、①最も肯定的な「思う」と答える児童の割合を85%以上、②肯定的に回答する児童の割合を前年度以上にする。 〈今年度①78.1% ②77.5%〉 [前年度 ①77.5% ②78.4%]</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◇学校・保護者・地域との連携を密にするとともに、区役所・警察等の学校内外の専門的な機関とも連携を密にして安全・安心な学校の構築を目指す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇年間3回の避難訓練（火災、地震・津波、不審者）を実施するとともに、引き渡し訓練（風水害）を実施する。また、年度末に児童へアンケートを行い、「避難の仕方が分かりましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。 〈今年度 3回の実施と引き渡し訓練〉 〈今年度 96.7%〉 [前年度 2回の実施と引き渡し訓練] [前年度 ——%]</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>◇社会見学や出前授業などの体験的な活動を積極的に行い、社会の仕組みを学んだり、様々な人と出会ったりすることにより、社会や人の役に立とうとする心を育む。また、道徳や学級活動の時間などを中心に、児童の自己肯定感を育む取り組みとして、学期に一回程度、いいことみつけを実施し、身近にある人権に関することに関心をもてるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇年度末の学校アンケートにおいて、「自分にはいいところがある」の項目に肯定的に答える児童の割合を、前年度より向上させる。</p> <p style="text-align: right;">〈今年度 82.0%〉 [前年度 77.5%]</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <p>◇児童会活動や様々な取り組みを通して、児童にあいさつをするよう意識させ、校内や校外で出会った人にあいさつできるようにする。年に2回、児童会であいさつ運動に取り組み、より積極的にあいさつできるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇年度末の学校アンケートにおいて、「先生や友だちにあいさつができていますか」の項目に肯定的に答える児童の割合を、前年度より向上させる。</p> <p style="text-align: right;">〈今年度 92.0%〉 [前年度 90.0%]</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 道徳の「いじめ」に関する授業を毎学期行うことで、いじめに対する理解が深まった。また、アンケートの後、聞き取りを行い、各学級対応・指導を行った。報告会、全体会と行うことで、教職員の共通理解ができた。</p> <p>② 消防署や警察署と連携をし、年3回訓練を行えた。</p> <p>③ 各学年において、社会見学や出前授業などの体験的な活動を計画的に実施し、社会の仕組みへの理解を深めるとともに、様々な人と関わる中で社会や人の役に立とうとする意識を高める姿が見られた。また、道徳や学級活動の時間を中心に「いいことみつけ」などの自己肯定感を高める取り組みを継続したことで自分や友だちのよさに気づき互いを認め合う言動が増えてきた。年度末の学校アンケートの結果は、82%で目標を達成できた。</p> <p>④ 児童会を中心に年に2回のあいさつ運動に取り組んだことで、積極的にあいさつを行うことができた。また、毎週月曜日の放送であいさつについての呼びかけを行ったことであいさつへの意識を高めることができた。年度末の学校アンケートの結果は、92%で目標を達成できた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 経年調査では、3年生以上が対象なので学校アンケートを使ってはどうか。アンケートから報告・共有まで、もっとタイムリーに取り組む必要がある。</p> <p>② 不審者の対応（訓練の様子など）を詳しく知りたい。 消火器訓練や煙体験が無くなったが、できるようになってほしい。 休み時間中の不審者対応や、告知なしの避難訓練などをしてはどうか。</p> <p>③ 児童が自分や友だちの良さに気づけるよう、学年に応じた形や頻度でいいことみつけを計画的・継続的に行っていくことが望まれる。日常的な取り組みとして、全校での実施や学期に1回のForms入力、結果の掲示などを通して意識づけを図るとともに、休み時間や行事等で他学年が関わる機会を設け、自然な交流の中でよさを見つけ合える場を継続して行っていきたい。</p> <p>④ あいさつ週間以外の期間においても継続してあいさつができるよう、掲示物の工夫や集会。放送での呼びかけを引き続き行う。また、あいさつ運動については負担感の少ない形にし、学期に1回程度実施することで、日常的なあいさつの定着を図っていけるよう検討していく。</p>	

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>◇小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 〈今年度4年 1.07、5年 1.02、6年 1.03〉 〔前年度 4年 1.02、5年 1.04、6年 0.97〕</p> <p>◇小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を前年度より向上させる。 〈今年度 31.8%〉〔前年度 27.7%〕</p> <p>◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。 〈今年度 72.5%〉〔前年度 65.5%〕</p> <p>学校の年度目標</p> <p>◇年度末のキラピカ週間の調査で「ハンカチ、ティッシュの携帯」に、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。 〈今年度 ハンカチ 81%・ティッシュ 74%〉〔前年度 ——%〕</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◇学力向上に効果的な授業実践やICTの活用方法について、教職員間で情報共有を図る。また、話し合い活動を積極的に取り組む児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇低・中・高学年それぞれ1本ずつの研究授業と、全教員が公開授業に取り組む。長期休業中（夏季休業・冬季休業など）に、教職員の授業力向上のための研修を実施する。 〈今年度 実施〉</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◇児童の基礎的・基本的な学力の定着を図るために、学校全体で取り組む。また、家庭学習の啓発に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇学校全体で基礎的・基本的な学力の定着を図るための施策に年1回以上取り組む。また家庭への家庭学習の啓発のための施策を年1回以上取り組む。 〈今年度 年3回実施（家庭との連携2回）〉</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>◇なわとび週間やげんキッズ週間を実施し、体を動かすためのきっかけづくりの場を設け、運動する習慣をつける。運動委員会や体力向上推進委員会で、教室でも体を動かせるようなストレッチやシナプソロジーの動画をつくり、毎日元気に過ごすことができるよう啓発する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>◇小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を69%以上にする。 〈今年度 72.5%〉〔前年度 65.5%〕</p>	A

<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <p>◇健康や体力を保持増進する力を育成するために、キラピカ週間の取組みを行い、手洗いの大切さ、ハンカチ・ティッシュの携帯を意識づけ、健康で清潔な生活への意識を高める。</p>	<h1 style="font-size: 2em;">B</h1>
<p>指標</p> <p>◇年度末のキラピカ週間の調査で、ハンカチ・ティッシュの携帯率を80%以上にする。</p> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">〈今年度ハンカチ81%・ティッシュ74%〉〔前年度 ——%〕</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①計画通り ICT を活用した研究授業を進めることができた。特に新たなアプリを取り入れた学習に取り組むことができた。また ICT 活用に関わった研修も進めた。新しい端末の操作方法や音読学習など ICT を活用した。その結果、ICT を積極的に活用し、どの学年の児童においても活用技術が向上している。また教職員の ICT スキル向上においても有効的な学びになった。</p> <p>②全校児童で、各学期のまとめなど漢字学習を取り組んだ。児童と保護者がいっしょに学習する取り組みも進めた。保護者から好評で、家庭学習の啓発に繋げることができた。児童が楽しく漢字に向き合い、学力向上への取り組みを進めた。</p> <p>③なわとび週間やげんキッズ週間を実施することで、児童が積極的に外で遊ぶ様子が見られ、体を動かすことへの意識づけはできた。また、雨でも教室で体を動かすことができた。</p> <p>④ 児童が自ら手洗いをしたり、消毒をしたりする様子が見られた。ハンカチ・ティッシュの携帯率は1学期より増え、健康で清潔な生活への意識が高まった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>① 継続していく。新しいタブレット端末に更新され、操作方法など研修を重ねていきたい。ICT 活用だけでなく、学力向上に効果的な授業実践についても議論を始める。</p> <p>②継続していく。今年度おこなった取り組みに対して効果を確認し、本校のその他の課題に対しても、学力向上に努める。</p> <p>③なわとび週間やげんキッズ週間で一定の効果がでたので、それぞれの週間を通して体を動かす習慣作りを今後も継続していく。シナプソロジーの啓発もしていく。普段から外に出不い児童がいるので、みんなあそび等の工夫をしていく。</p> <p>④ハンカチ・ティッシュの携帯ができていない児童の固定化が見られるため、日ごろから声かけ等をしていく。</p>	

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を、昨年度より増加させる。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。 〈今年度 85.8%〉 [前年度 52.0%]</p> <p>◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 〈今年度 71.1%〉 [前年度 58.3%]</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>◇スクールライフノートの「心の天気」の入力や、連絡帳機能の活用など、各学年の実態に応じて、日常的にICT機器に触れる機会を設ける。また、教科書記載のQRコードから読み取れるコンテンツやデジタルドリル、調べ学習等、児童が学習者用端末を学習に活用する場面を設け、活用していく中で、個別の学びや協働的な学びの実現ができるようにする。</p>	A
<p>指標</p> <p>◇授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を、昨年度より増加させる。ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。 〈今年度 85.8%〉 [前年度 52.0%]</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>◇学年等の小グループで意見をまとめ、本会議 職員会議 でのスムーズな議事運営を図るなど、事前検討に時間を割き少人数での周知や検討を行う事により、会議時間の圧縮や活発な意見交換を目指す。</p>	B
<p>指標</p> <p>◇第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(1か月の平均時間外勤務が45時間を超えない)を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 〈今年度 71.1%〉 [前年度 58.3%]</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 各学年「心の天気」の入力や連絡帳機能の活用、音読・リコーダーの宿題など、実態に応じて、日常的にICT機器に触れる機会を設けた。授業時間や朝学習の時間に、QRコードから読み取れるコンテンツやデジタルドリル、様々なアプリ等を活用し、個別の学びや協働的な学びの実現に向けて、取り組みを進めた。指標については、5月から12月で85.8%と、前年度を大きく上回った。</p> <p>② 少人数での意見交換が事前にでき、本会議の時間はやや短くなり、会議の回数も減らすことができた。その中でも、内容の検討は十分にされているし、放課後に少しゆとりを持てるようになった。学年内ではもちろん、TeamsやSKIPの掲示板を活用した情報共有も行うことができた。指標については、1月末時点で71.1%と、前年度を上回った。</p>	

次年度への改善点

- ① 年明けに端末の入れかえがあったため、冬季休業中の活用ができなかったことと、新しい端末の使い方の指導が必要であったので、時間を取られた。また、新しい機器への対応が今後の課題である。教員側は、毎日利用できるよう意識しているが、持ち帰りを忘れたり家に忘れてきたりする児童が少なからずいるため、毎日持ってくる、持って帰ることを習慣づけていく。使い方のルール（休み時間は使用させないなど）も、引き続き指導していく。教員の研修や機器の整備については、今後も継続して、計画的に進めていく。
- ② 業務も細分化を進め、一人当たりの業務量の均等化をめざしていく。業務の引き継ぎにあたり、混乱なく業務を進めていくために、前年度を土台として、反省をふまえて少しずつ改善を行っていく。勤務時間の短縮をめざして、より効率よく業務を進められるよう、考えていく。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東中浜小学校 学校協議会

1 総括についての評価

「自己評価結果の総括」は概ね妥当である。
・子どもたちへの対応、学習面への取り組み、教職員の働き方改革など、学校現場を取りまく状況が厳しいなか、模索しながら学校運営を行っている。

2 最重要目標ごとの評価

最重要目標1 安全・安心な教育の推進

- ・教室での過ごし方の安心・安全だけでなく、その他の環境改善も進めてもらいたい。
- ・集団登校がなくなったので、子どもたちの登下校の安全のため、これまで以上に地域・保護者による見守り活動に力を入れるべきであると思う。
- ・いじめへの質問に対し、最も肯定的な回答が78%という数値となっている。引き続き、安心して過ごせる環境づくりをお願いする。
- ・いじめが良くないこと、やっつけはいけないことというのは多くの子どもたちも認識できていると考える。要因は様々とするが、学校だけでなく、家庭でも繰り返し話し合っていこうと思う。
- ・「いいとこみつけ」のような改めて子ども同士が伝え合うことは良いと思う。親子でもしてみようと思う。

最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・小さな成功体験を積み重ねて自己肯定感を高める取り組みを行っていただきたい。
- ・タブレット端末を使用した学習をすすめ、活用率が伸びていることはこれからの時代に必要なスキルを身に付けることになると評価している。課題としてでた「自分の考えを自身の力で伝えることができるのか」の観点を今後ももって指導をお願いしたい。
- ・ICTを使った学習の子供たちの進化はすごい。苦手な教員もいるかと思うが、熱心に取り組んでいることを評価している。

最重要目標3 学びを支える教育環境の充実

- ・教職員の負担軽減にむけた取り組みを積極的に進めてもらいたい。
- ・先生方の「心の天気」も大切である。PTA活動を通じて、先生方が様々な対応を行っていることを知った。教員だから当たり前ではなく、心と体のバランスをとりながら現場で活躍してもらいたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・日々、子どもたち、保護者のために学校運営に取り組んでいただき感謝している。
- ・これから子どもたちが成長していくにあたり、少しの失敗ではくじけない心をはぐくみ、負けない気持ちを大きくできればよいと思う。
- ・子どもたちの成長のためには指導される教員の方々が心身ともに元気であることが大切である。そのため教育の質を落とさず、働き方改革を積極的に進めてください。

